

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO IDWR

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2015年第30週
(7月20日～7月26日)

- * 2015年7月29日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「どうなっているの?子宮頸がん予防ワクチン」も掲載しています。
- * 今週は病原体検査情報の掲載をお休みします。

平成27(2015)年7月30日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話 : 03-3363-3213(直通)
FAX : 03-5332-7365
e-mail : www@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2015年30週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							
	結核	79	65	80	43	2,085	290	13,523
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 ^{*1}							
	中東呼吸器症候群 ^{*2}							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
	鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*3}							
三類	コレラ							3
	細菌性赤痢	1	3	2		36	3	85
	腸管出血性大腸菌感染症	24	27	27	13	168	97	1,569
	腸チフス					7		21
	パラチフス					5	1	23
四類	E型肝炎	1			1	18	5	114
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎				2	29	4	161
	エキノコックス症					1		8
	黄熱							
	オウム病							5
	オムスク出血熱							
	回帰熱							2
	キャサヌル森林病							
	Q熱							
	狂犬病							
	コクシジオイデス症	1				1		2
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 ^{*4}							30
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱		1			6		11
	つつが虫病					2		71
デング熱	2	1	3		38	3	135	
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								

*1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。2014年7月26日より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*3 2013年より指定感染症に定められた後、2015年1月21日より二類感染症に変更された。

*4 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
四 類	ニパウイルス感染症							
	日本紅斑熱						3	85
	日本脳炎							
	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症		1			2		4
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ポツリヌス症							
	マラリア	1				8		21
	野兔病							1
	ライム病		1			1		3
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽							
	レジオネラ症	4	6	6	5	67	44	813
レプトスピラ症					5		6	
ロッキー山紅斑熱								
2015/7/29集計								

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 43件 肺結核 28件、その他の結核 5件、肺結核及びその他の結核 2件、無症状病原体保有者 7件、疑似症 1件、年齢は10歳未満 1件、10代 1件、20代 3件、30代 4件、40代 8件、50代 4件、60代 3件、70代 8件、80代 9件、90歳以上 2件、推定感染地は国内 43件であった。

〈三類感染症〉

腸管出血性大腸菌感染症 13件 患者 5件、無症状病原体保有者 8件、血清型・毒素型はO26 VT1 2件、O157 VT1・VT2 7件、O157 VT2 2件、血清型不明VT1 1件、血清型不明VT2 1件、年齢は10歳未満 5件(うち5歳未満 2件)、20代 3件、30代 4件、40代 1件、推定感染地は国内 13件、推定感染経路は接触感染 5件、経口感染 4件、不明 4件であった。O157 VT1・VT2の3件は、第29週から報告されている保育園児を初発とする事例に関連していた(計7件)。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は50代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。具体的な感染原因は不明。

A型肝炎 2件 患者 2件、年齢は30代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 1件、フィリピン 1件、推定感染経路は経口感染 2件であった。推定感染地が国内の1件は、生ガキ喫食との関連が疑われている。

レジオネラ症 5件 病型は肺炎型 5件、年齢は50代 1件、60代 3件、70代 1件、推定感染地は国内 5件、推定感染経路は水系感染 1件、塵埃感染 1件、不明 3件であった。

※ 第29週該当分として〔三類〕腸管出血性大腸菌感染症 3件の追加報告があった。

※ 第29週該当分として〔四類〕デング熱 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2015年30週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		27週	28週	29週	30週	年累計	30週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	7	5	6	3	118	10	623
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1			1	31		137
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 *2	6	5	10	6	103	16	769
	急性脳炎 *1		1		1	29	6	302
	クリプトスポリジウム症					3		9
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2	1	2		16		99
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	1		1	39	4	262
	後天性免疫不全症候群	10	7	6	6	238	12	791
	ジアルジア症	2	1	1		13		40
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2				15	7	147
	侵襲性髄膜炎菌感染症				1	7	1	19
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	2	4	4	205	13	1,465
	水痘(入院例に限る) *2	2	1		1	29	2	183
	先天性風しん症候群							
	梅毒	20	19	19	14	531	20	1,289
	播種性クリプトコックス症 *2			1	1	8	1	68
	破傷風					1	1	54
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					1	2	34
風しん	1	1			21	4	109	
麻しん					9		26	
薬剤耐性アシネトバクター感染症 *2	1				5		19	

2015/7/29集計

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、バネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2014年9月19日より新たに追加指定された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 3件 病型は腸管 2件、腸管外 1件、年齢は30代 1件、40代 1件、50代 1件、推定感染地は国内 3件、推定感染経路は異性間性的接触 3件であった。

ウイルス性肝炎 1件 病原体はサイトメガロウイルス、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 6件 患者 6件、病原菌はエンテロバクター・アエロゲネス 2件、エンテロバクター・クロアカ 2件、セラチア・マルセッセンス 2件、年齢は60代 2件、70代 3件、80代 1件、推定感染地は国内 6件、推定感染経路は以前からの保菌 3件、手術部位感染 1件、不明 2件、90日以内の海外渡航歴は有り 1件、無し 5件であった。

急性脳炎 1件 病原体不明、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1件 血清群はB群、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染経路は不明であった。

後天性免疫不全症候群 6件 無症候キャリア 6件、無症候キャリアの年齢は20代 2件、30代 3件、40代 1件、推定感染地は国内 5件、韓国 1件、推定感染経路は性的接触 6件(同性間 4件、異性間 1件、両性間 1件)であった。

侵襲性髄膜炎菌感染症 1件 血清型は検査未実施、年齢は5歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は不明、共同生活は有り(保育園)、ワクチン接種歴は無しであった。

侵襲性肺炎球菌感染症 4件 血清型は検査未実施 4件、年齢は40代 1件、60代 1件、70代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は不明 4件、肺炎球菌ワクチン接種歴は無し 1件、不明 3件であった。

水痘(入院例) 1件 検査診断例、年齢は10歳未満、推定感染地は国内、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染、水痘ワクチン接種歴は無しであった。

梅毒 14件 早期顕症梅毒Ⅰ期 2件、早期顕症梅毒Ⅱ期 11件、無症候梅毒 1件、年齢は20代 4件、30代 3件、40代 4件、50代 3件、推定感染地は国内 13件、米国 1件、推定感染経路は性的接触 14件(同性間 4件、異性間 9件、性別不明 1件)であった。

播種性クリプトコックス症 1件 患者、年齢は70代、推定感染地は国内、推定感染原因は免疫不全であった。

※ 第29週該当分として〔五類〕カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1件、梅毒 2件の追加報告があった。

定点把握対象疾患 報告数 2015年30週

上段: 報告数
下段: 定点当たり

定点種別	対象疾患	2015年				報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		27週	28週	29週	30週		
小児科	RSウイルス感染症	10	9	15	23	260	264
		0.04	0.03	0.06	0.09		
	咽頭結膜熱	183	204	175	117		
		0.70	0.78	0.68	0.45		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	833	891	712	505		
		3.18	3.39	2.75	1.94		
	感染性胃腸炎	1,511	1,493	1,263	981		
		5.77	5.68	4.88	3.77		
	水痘	113	139	121	115		
		0.43	0.53	0.47	0.44		
	手足口病	1,541	2,720	3,948	3,606		
		5.88	10.34	15.24	13.87		
	伝染性紅斑	314	368	382	234		
		1.20	1.40	1.47	0.90		
突発性発しん	185	177	170	154			
	0.71	0.67	0.66	0.59			
百日咳	10	7	12	3			
	0.04	0.03	0.05	0.01			
ヘルパンギーナ	329	721	865	799			
	1.26	2.74	3.34	3.07			
流行性耳下腺炎	90	97	108	89			
	0.34	0.37	0.42	0.34			
川崎病 *1		7	6	7			
		0.03	0.02	0.03			
不明発しん症 *1	29	44	52	58			
	0.11	0.17	0.20	0.22			
インフル エンザ	インフルエンザ *2	10	8	7	10	411	419
		0.02	0.02	0.02	0.02		
眼科	急性出血性結膜炎		2			39	39
			0.05				
	流行性角結膜炎	30	24	36	26	39	39
		0.79	0.62	0.92	0.67		
基幹	細菌性髄膜炎 *3			2	2	25	25
				0.08	0.08		
	無菌性髄膜炎		2	1	5		
			0.08	0.04	0.20		
	マイコプラズマ肺炎	8	8	10	8		
		0.32	0.32	0.40	0.32		
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	2	1	1				
	0.08	0.04	0.04				
感染性胃腸炎(ロタウイルス) *4		1					
		0.04					
インフル エンザ 入院			1		1	25	25
			0.04		0.04		

2015/7/29集計

*1 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

*2 鳥インフルエンザを除く。

*3 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

*4 病原体がロタウイルスであるものに限る。

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は若干減少したが、島しょ以外のすべての保健所が警報レベルとなっている。
- ・ 伝染性紅斑の定点当たり報告数は減少したが、都の警報は継続している。
- ・ 無菌性髄膜炎の定点当たり報告数は増加した。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2015年30週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
～5か月	5		1	8	1	20		2		5	
6～11か月	8	5	1	89	4	342	2	53		58	
1歳	7	22	21	166	14	1,078	25	71		204	1
2歳	2	15	31	105	8	702	31	20		147	3
3歳		18	55	103	24	414	29	4		89	8
4歳	1	18	59	83	11	352	36	3	1	76	18
5歳		12	79	74	9	254	40	1		68	21
6歳		7	70	59	11	153	27		1	57	11
7歳		8	45	41	12	93	19			32	7
8歳		4	40	53	5	68	9			21	5
9歳		3	24	31	11	28	10			12	8
10～14歳			48	69	5	55	4			14	5
15～19歳		1	3	12		3			1	4	
20～29歳		4	28	88		44	2			12	2
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	23	117	505	981	115	3,606	234	154	3	799	89
先週比	8	-58	-207	-282	-6	-342	-148	-16	-9	-66	-19

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジ ア肺炎	感染性 胃腸炎 (ロタウイルス)	インフル エンザ 入院
～5か月	1	1					3				
6～11か月	1	7				1					
1歳	1	22	1		2						
2歳		11	1		2	1	1	1			
3歳	2	3			1						
4歳	1	3						1			
5歳		3			2						
6歳	1	1			1			1			
7歳		1									
8歳		2						1			
9歳			1								
10～14歳		3					1	1			
15～19歳								1			
20～29歳		1	1		3			1			
30～39歳			3		5						
40～49歳			2		3						1
50～59歳					4						
60～69歳					2						
70～79歳					1			1			
80歳以上			1								
合計	7	58	10		26	2	5	8			1
先週比	1	6	3		-10		4	-2	-1		1

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数【保健所別】 2015年30週

	小児科										
	RS ウイルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				1.00		4.67	0.67	0.33		0.67	
中央区		0.67	0.67	5.67		26.67				1.33	
みなと	0.17	1.50	1.67	3.50	0.50	9.33	1.00	0.67		1.50	0.50
新宿区	0.29	1.00	2.71	3.29	0.14	12.14	0.29	0.71		2.43	
文京	0.25	0.50	0.50	2.25	0.50	15.75	1.25	1.00		1.25	
台東		0.50	2.00	5.50	0.25	21.25	1.25	1.50		2.25	0.50
墨田区			0.20	0.80	0.40	14.80		0.60		4.60	1.80
江東区	0.89	0.44	1.44	7.00	0.67	22.89	1.00	0.56		3.89	0.67
品川区		0.88	0.38	4.13	0.38	12.38	0.13	0.63		2.75	
目黒区	0.25		3.00	2.50	0.25	15.50	0.25	1.00		2.50	
大田区	0.08	1.15	2.85	4.54	0.77	14.77	0.46	0.92	0.08	3.00	0.08
世田谷		0.31	2.50	2.13	0.81	10.94	1.50	0.31		3.63	
渋谷区			0.25	2.00		9.00	0.50	0.50		1.50	
中野区			0.67	7.83		17.50	1.17	0.17		4.00	
杉並		0.27	1.18	2.55		8.09	0.82	0.82		1.36	
池袋	0.25		0.75	0.75		6.75	0.50			2.00	
北区		0.14	1.14	3.00	0.29	19.29	0.14	0.43		3.14	0.14
荒川区	0.50	0.75	1.25	5.00	1.25	18.50	1.25	2.00	0.25	4.00	2.75
板橋区			0.30	2.40		6.90	1.30	0.30		1.40	0.50
練馬区		0.15	1.54	3.46	0.31	16.77	0.31	0.31		3.92	0.38
足立		0.38	1.38	4.31	0.46	10.85	1.46	0.54		2.31	0.23
葛飾区		0.38	2.75	4.75	0.25	5.25	1.13	0.63		3.75	0.25
江戸川	0.25	1.00	2.83	4.92	0.33	9.75	0.92	0.42		5.17	0.58
八王子市	0.09	0.45	3.18	8.82	1.27	22.73	1.09	0.82		3.18	0.36
町田市			3.88	6.00	1.50	14.75	0.63	1.13		3.63	
西多摩		0.25	1.13	2.00		10.13	0.38	0.38		0.88	0.38
南多摩	0.22	0.33	3.22	2.78	0.22	19.89	1.33	0.56		3.56	0.22
多摩立川		0.21	2.64	2.86	0.57	12.43	0.79	0.14		3.21	
多摩府中		0.30	1.95	2.45	0.20	11.65	1.60	0.70		3.55	0.90
多摩小平		1.07	3.13	3.93	0.67	21.80	1.07	0.73	0.07	4.60	0.47
島しょ											
東京都	0.09	0.45	1.94	3.77	0.44	13.87	0.90	0.59	0.01	3.07	0.34

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			0.25								0.50
中央区			0.20		2.00						
みなと	0.17							1.00			
新宿区	0.14				1.00						
文京					1.00						
台東		2.25									
墨田区		0.40	0.13								
江東区	0.11										
品川区											
目黒区		0.25			1.00						
大田区		0.15			1.50						
世田谷		0.25	0.28			1.00	0.50				
渋谷区								1.00			
中野区		0.17									
杉並					1.00						
池袋											
北区											
荒川区	0.25	0.25									
板橋区		0.30			1.00			1.00			
練馬区		0.08			1.50						
足立		0.08			0.50						
葛飾区		0.63			1.00			2.00			
江戸川	0.08	0.33									
八王子市		1.09			1.00						
町田市		0.38									
西多摩								1.00			
南多摩	0.11	0.22									
多摩立川		0.07									
多摩府中		0.10					1.33	0.67			
多摩小平	0.07	0.27			3.50						
島しょ											
東京都	0.03	0.22	0.02		0.67	0.08	0.20	0.32			0.04

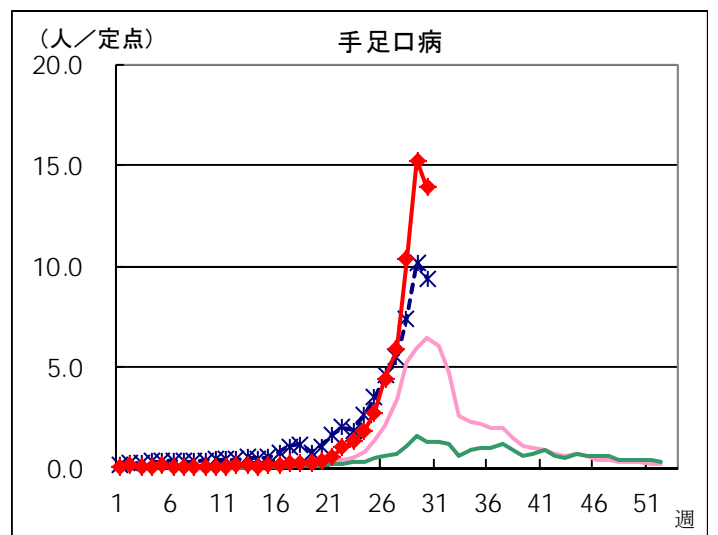
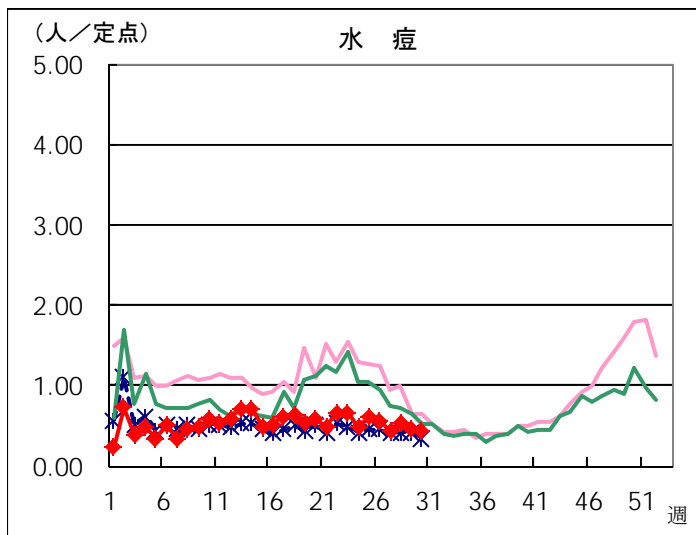
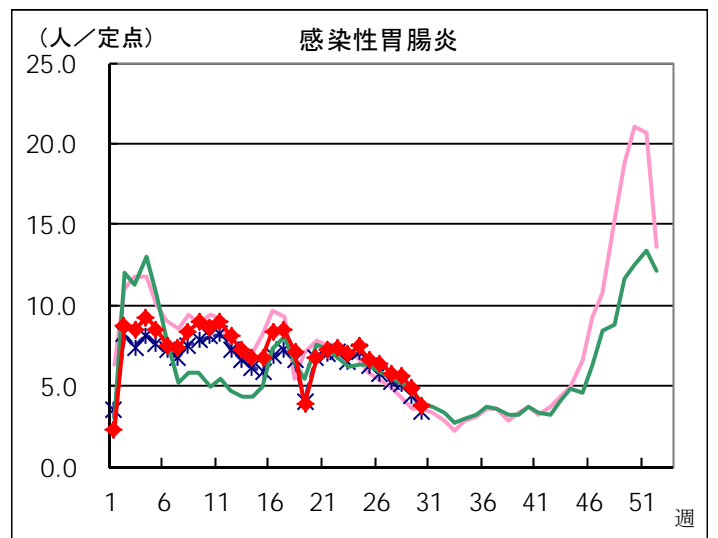
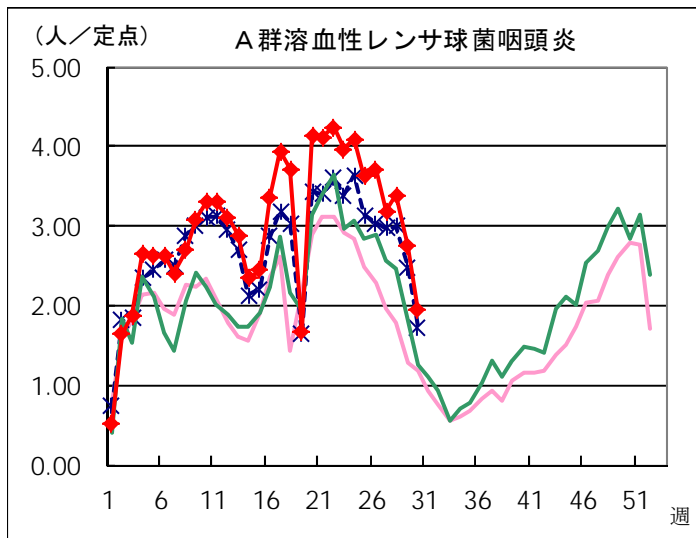
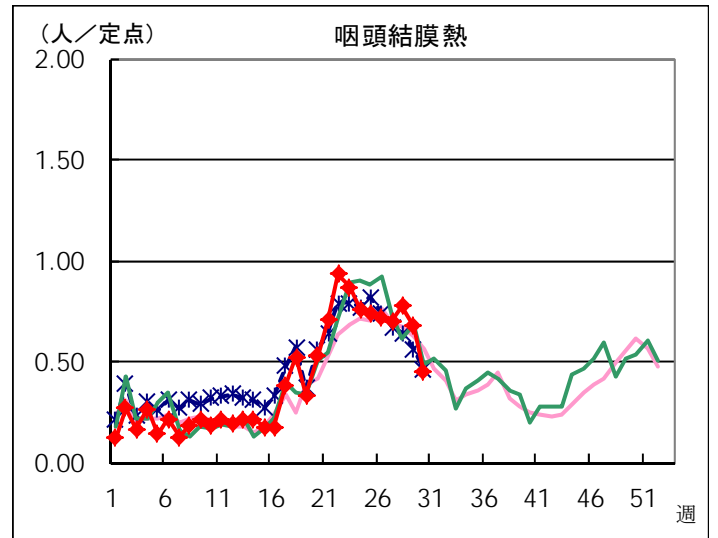
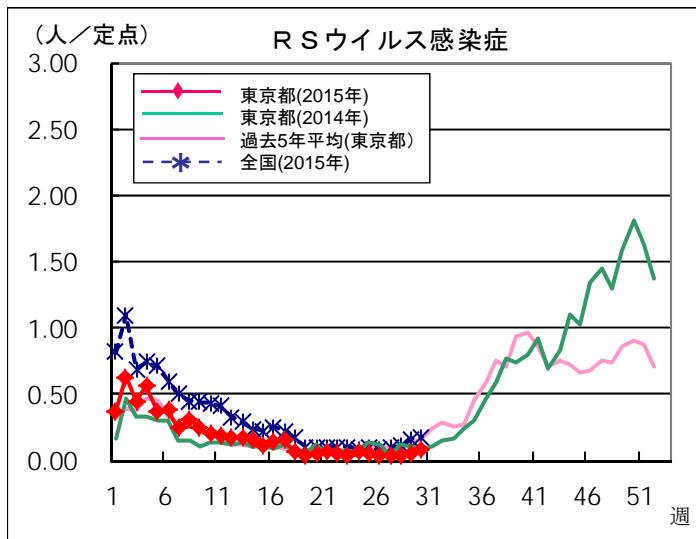
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2015年30週

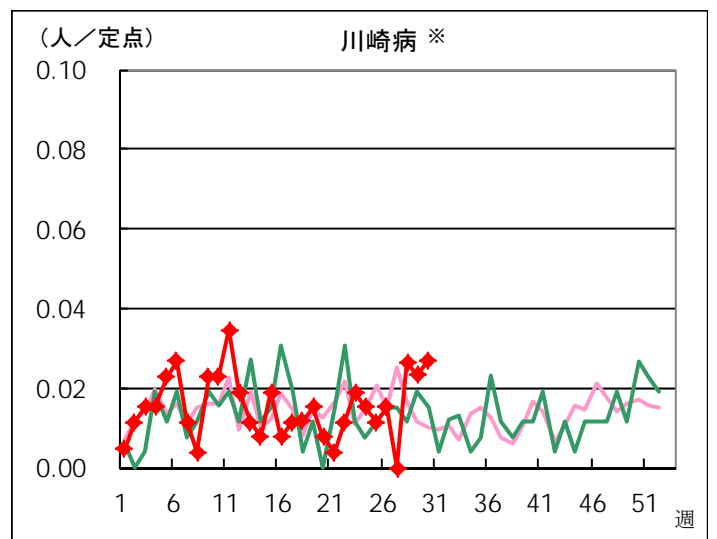
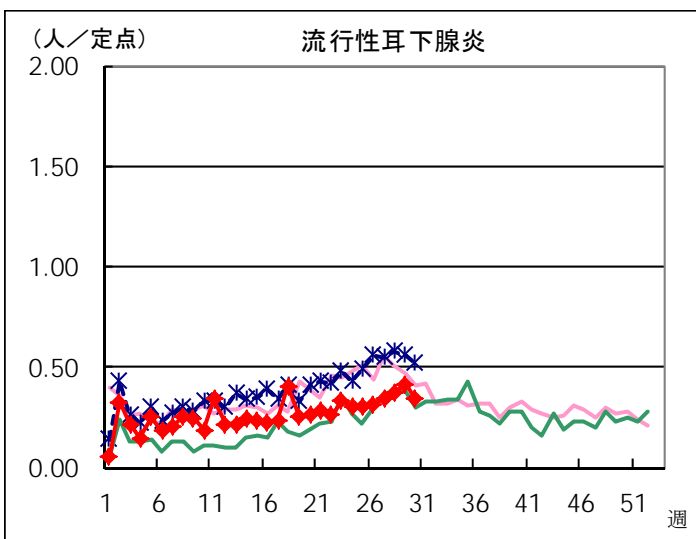
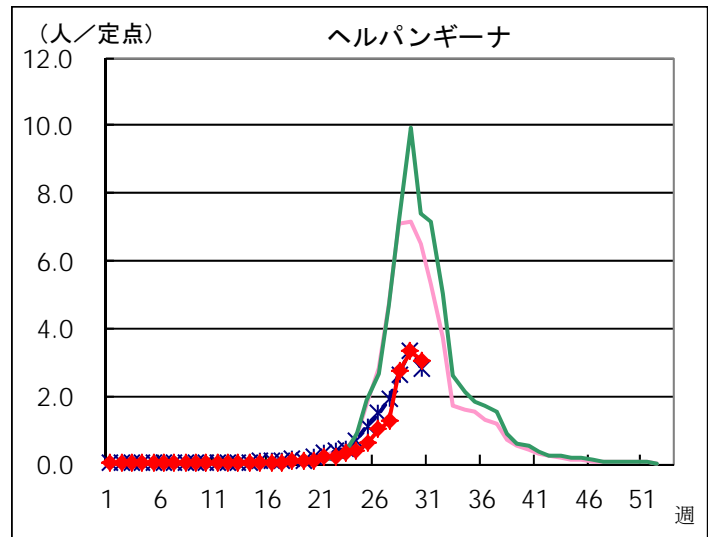
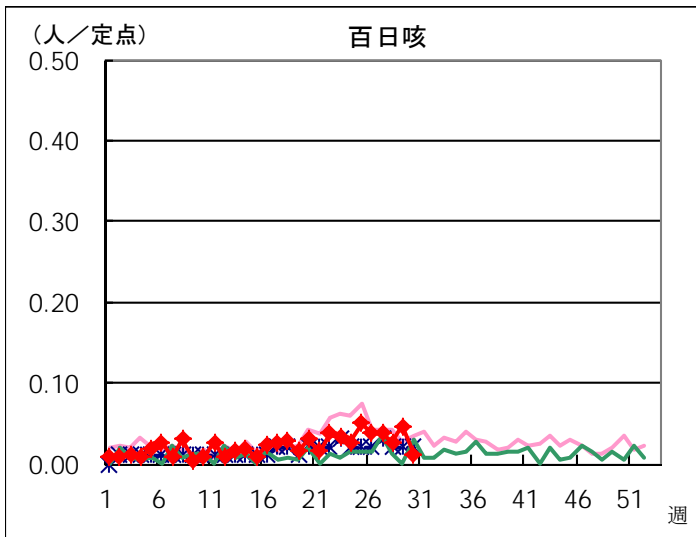
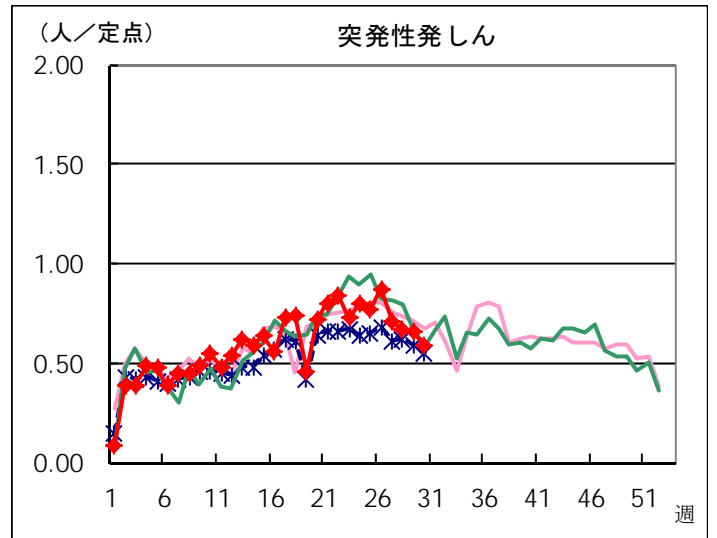
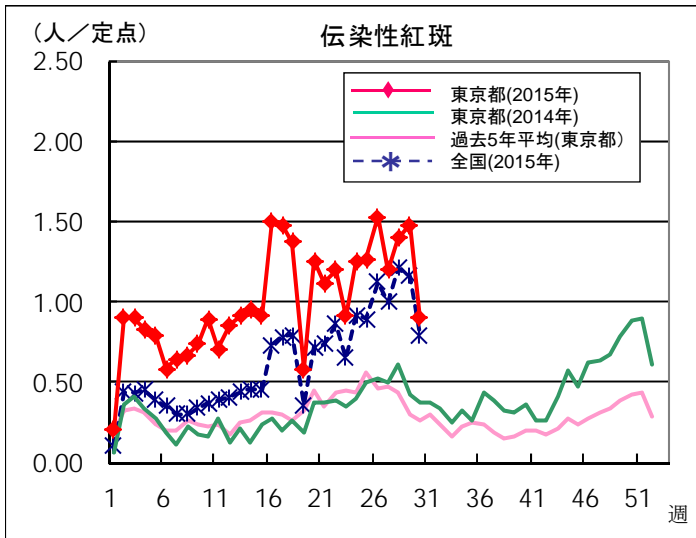
	小児科										
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ	流行性 耳下腺炎
千代田				3		14	2	1		2	
中央区		2	2	17		80				4	
みなと	1	9	10	21	3	56	6	4		9	3
新宿区	2	7	19	23	1	85	2	5		17	
文京	1	2	2	9	2	63	5	4		5	
台東		2	8	22	1	85	5	6		9	2
墨田区			1	4	2	74		3		23	9
江東区	8	4	13	63	6	206	9	5		35	6
品川区		7	3	33	3	99	1	5		22	
目黒区	1		12	10	1	62	1	4		10	
大田区	1	15	37	59	10	192	6	12	1	39	1
世田谷		5	40	34	13	175	24	5		58	
渋谷区			1	8		36	2	2		6	
中野区			4	47		105	7	1		24	
杉並		3	13	28		89	9	9		15	
池袋	1		3	3		27	2			8	
北区		1	8	21	2	135	1	3		22	1
荒川区	2	3	5	20	5	74	5	8	1	16	11
板橋区			3	24		69	13	3		14	5
練馬区		2	20	45	4	218	4	4		51	5
足立		5	18	56	6	141	19	7		30	3
葛飾区		3	22	38	2	42	9	5		30	2
江戸川	3	12	34	59	4	117	11	5		62	7
八王子市	1	5	35	97	14	250	12	9		35	4
町田市			31	48	12	118	5	9		29	
西多摩		2	9	16		81	3	3		7	3
南多摩	2	3	29	25	2	179	12	5		32	2
多摩立川		3	37	40	8	174	11	2		45	
多摩府中		6	39	49	4	233	32	14		71	18
多摩小平		16	47	59	10	327	16	11	1	69	7
島しょ											
東京都合計	23	117	505	981	115	3,606	234	154	3	799	89

	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹					
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	インフルエンザ入院
千代田			1								1
中央区			1		2						
みなと	1							1			
新宿区	1				2						
文京					1						
台東		9									
墨田区		2	1								
江東区	1										
品川区											
目黒区		1			1						
大田区		2			3						
世田谷		4	7			2	1				
渋谷区								1			
中野区		1									
杉並					1						
池袋											
北区											
荒川区	1	1									
板橋区		3			2			1			
練馬区		1			3						
足立		1			1						
葛飾区		5			1			2			
江戸川	1	4									
八王子市		12			2						
町田市		3									
西多摩								1			
南多摩	1	2									
多摩立川		1									
多摩府中		2					4	2			
多摩小平	1	4			7						
島しょ											
東京都合計	7	58	10		26	2	5	8			1

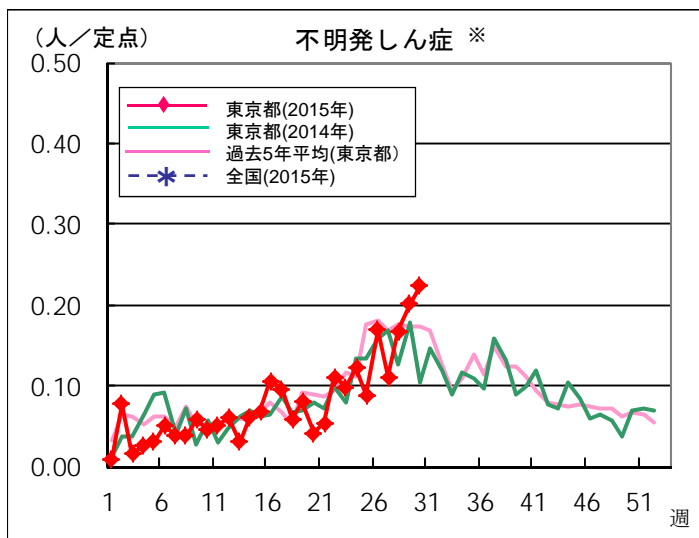
定点把握対象疾患 定点医療機関当たり報告数(2015年30週 現在)

◆ 小児科定点



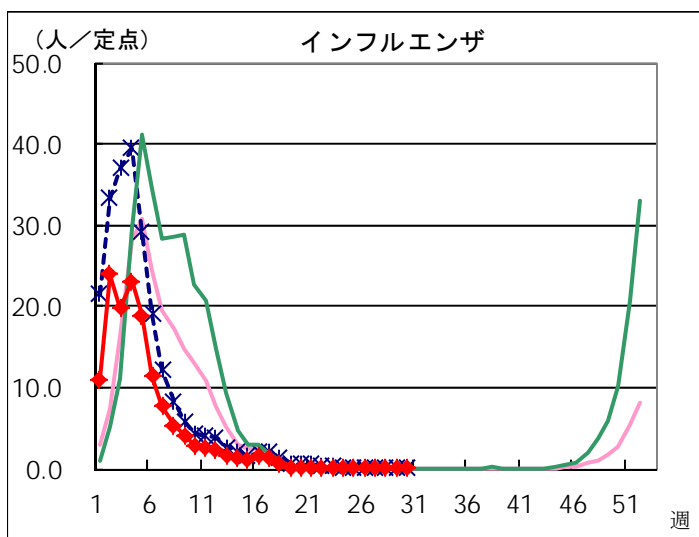


※ 東京都独自対象疾患

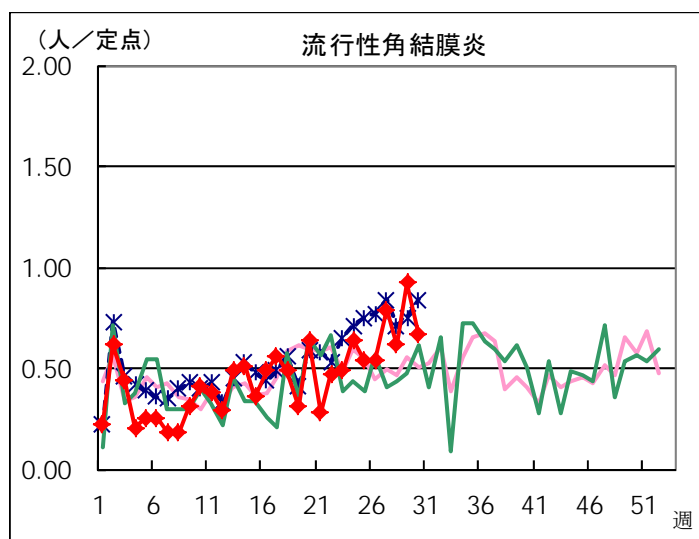
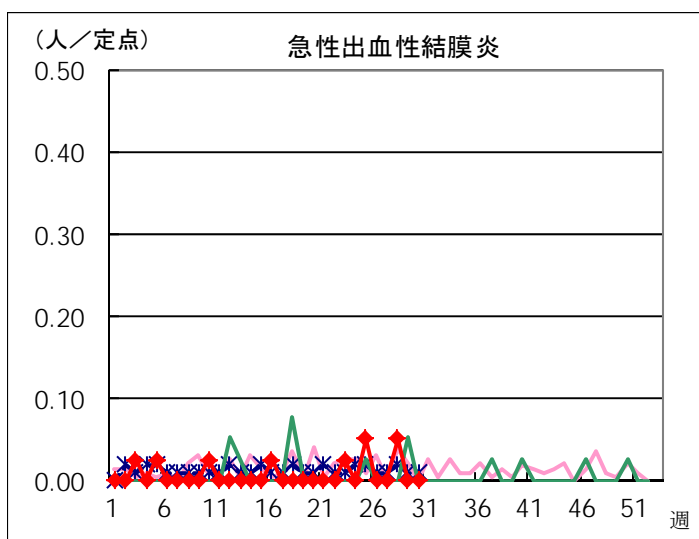


※ 東京都独自対象疾患

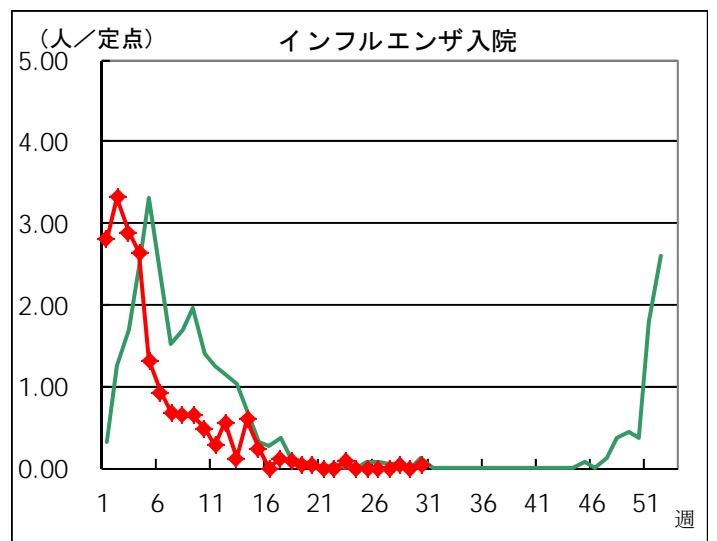
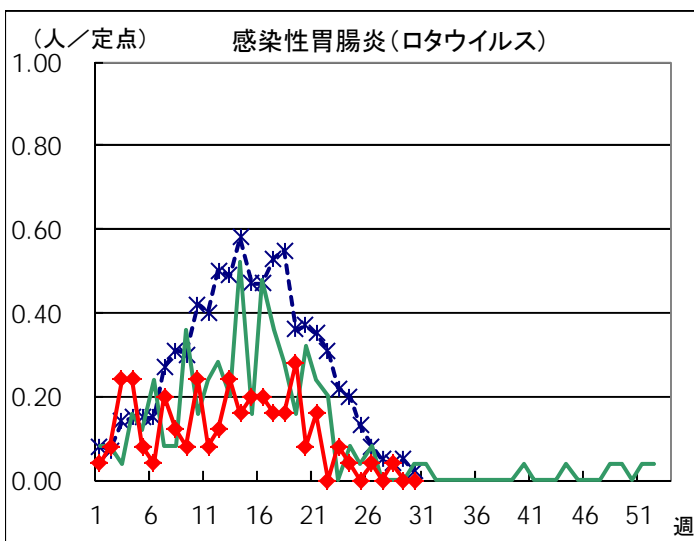
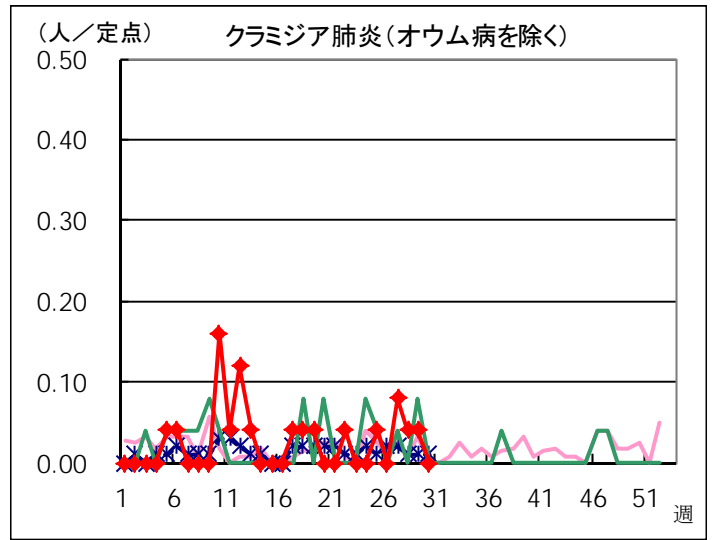
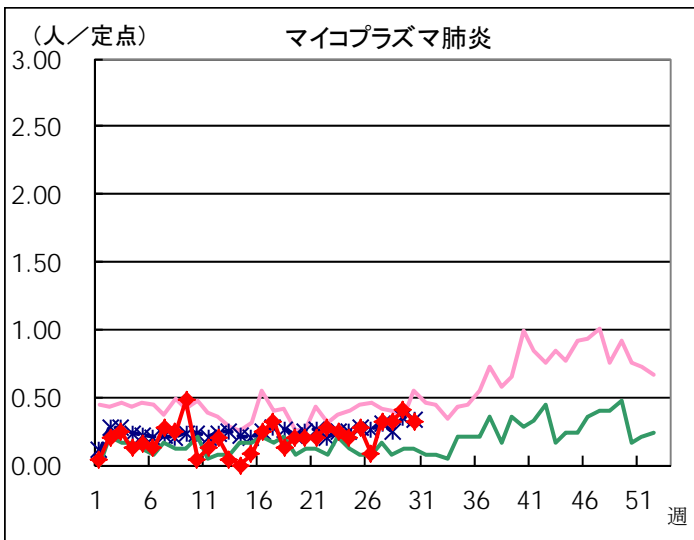
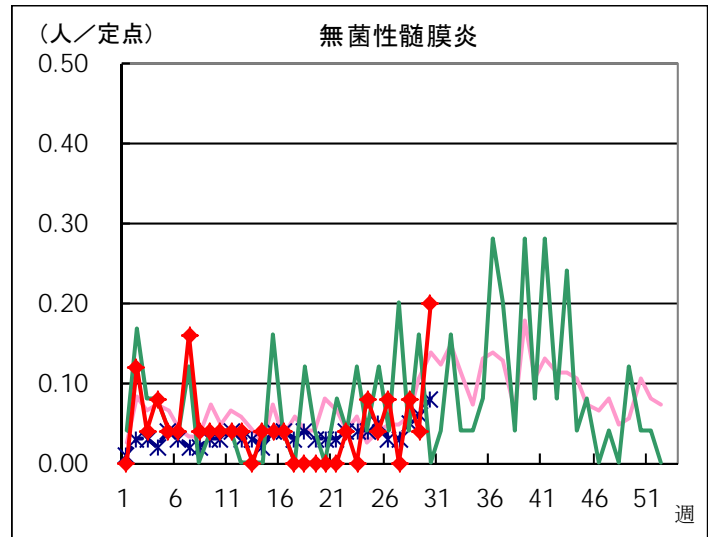
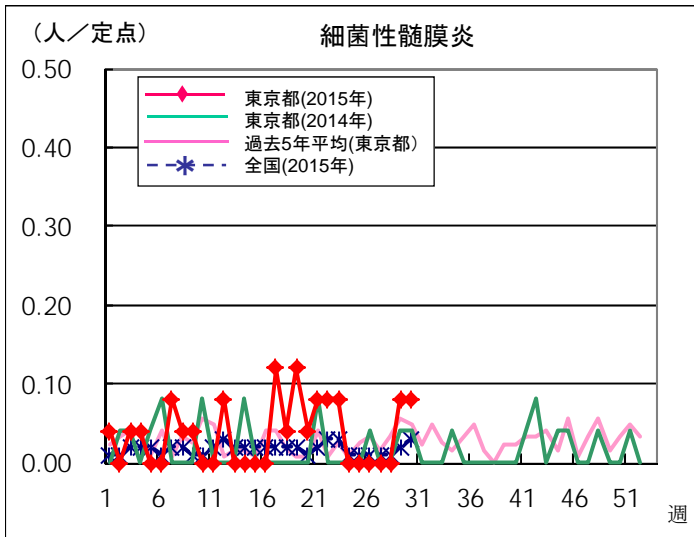
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



<感染症豆知識>

どうなっているの？子宮頸がん予防ワクチン

2013年4月に定期接種の対象となった子宮頸がん予防ワクチン。その後、ワクチン接種後に、原因不明の持続的な疼痛が見られた事例が複数報告されたことを受けて、同年6月に国は「定期接種は続けるが積極的に勧奨しない」との結論を出した。以来、2年があつという間に過ぎた。

子宮頸がんは決して特殊な病気ではなく、女性特有のがんとしてはわが国では乳がんに次いで罹患率が高く、特に20代から30代でのがんでは第一位となっている。毎日10人が死亡し、30人が子宮頸部円すい切除術を受けている。ワクチンを接種しなくても、検診をすることで子宮頸がんによる死亡を防げると言う方もいる。しかし、検診とは、がんあるいは前がん状態の早期発見には有効だが、程度の差こそあれ手術が必要となる。その結果、流産や早産のリスクが高まり、子宮を含めて広範囲な手術によって、将来の妊娠が困難になるだけでなく、排尿障害、尿失禁、むくみなどに苦しめられる女性は少なくない。ワクチンの接種は、そもそもがんにならないように予防するわけだから、検診とワクチン接種との違いは明白だ。

副反応に苦しんでいる女性に対しては手厚いサポートが必要であることは今さらいうまでもないが、だからといって、このままワクチン接種が止まったままになっていることを看過できない。「何かをやって失敗するのと、やらずに失敗するのとでは、どちらの罪が重いのだろうか。予防接種ワクチンの副反応は大きく取り上げられるが、予防接種をしないことの将来的な損害については、あまり注目されていない」という科学技術社会論研究者佐倉統さんの言葉が胸に響く。10年後、20年後、世界で唯一子宮頸がん罹患した女性が住む国などと揶揄されないためにも、子宮頸がん予防ワクチンの積極的勧奨が速やかに再開されることを願わずにはおれない。

(文責 一般社団法人日本家族計画協会理事長 北村 邦夫)